

大分都市広域圏域ビジョン（素案）

# 大分都市広域圏域ビジョン （素案）

平成27年12月22日

大分都市広域圏推進会議

大分市 別府市 白杵市 津久見市 竹田市 豊後大野市 由布市 日出町

# 大分都市広域圏域ビジョン（素案）

## 目次

第1章	はじめに	1
1.	大分都市広域圏域ビジョン策定の経緯	1
2.	連携中枢都市圏の名称および構成市町	1
3.	取り組みの期間	2
4.	推進および検証体制	2
5.	連携中枢都市圏および連携市町の概要	3
6.	連携市町から大分市への通勤・通学の状況	6
第2章	大分都市広域圏の現況	7
1.	人口の推移	7
2.	雇用の状況	8
3.	産業構造	10
4.	主要産業の動向	12
5.	都市機能の集積状況	17
6.	住民サービスの状況	19
第3章	圏域の目指す方向性	25
1.	大分都市広域圏のポテンシャル	25
2.	大分都市広域圏の目指す姿	25
3.	圏域づくりの考え方	27
第4章	将来像の実現に向けた取組	28

## 第1章 はじめに

### 1. 大分都市広域圏域ビジョン策定の経緯

我が国では本格的な人口減少・超高齢社会の到来を迎え、定住・交流人口の確保や企業誘致を巡る県内外との都市間競争の熾烈化、消費の減少による経済活力の低下、医療・福祉等の社会保障給付費の増大とこれを支える現役世代の負担増、既存の公共施設を介した公共サービスの需給バランスの不均衡など、多方面にわたり、私たちがかつて直面したことのないような深刻な問題や課題が顕在化することが懸念されています。

こうした時代の転換期のもと国の提唱する「連携中枢都市圏構想」に基づき、大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町は、大分市を圏域の中心市として各市町の一体的かつ持続的な発展を図り、「〇〇〇〇大分都市広域圏」の実現に取り組むこととなりました。

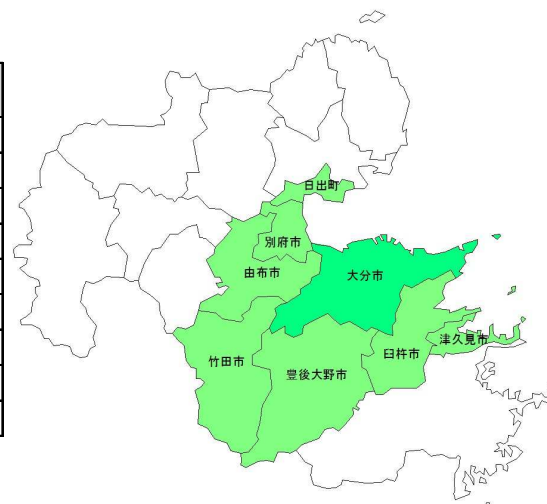
この「大分都市広域圏域ビジョン」は、今後、圏域全体の経済成長を見据えた7市1町の多様な資源・企業・人材の活用や、人口定住のために必要な高次の都市機能の集積に向けた環境整備、また住民の生活関連機能サービスの維持・向上を目指す有機的な連携等について大分都市広域圏の特徴と課題を示し、今後の具体的な取組みを推進するための広域計画とします。

### 2. 連携中枢都市圏の名称および構成市町

- ① 名称 大分都市広域圏
- ② 構成自治体 大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町

図表 1 構成市町の基本情報

自治体	読み	国勢調査人口H22	構成率	面積 km <sup>2</sup>	施行日
大分市	おおいたし	474,094	60.2%	502.39	1911.4.1
別府市	べっぶし	125,385	15.9%	125.29	1924.4.1
臼杵市	うすきし	41,469	5.3%	291.20	1950.4.1
津久見市	つくみし	19,917	2.5%	79.47	1951.4.1
竹田市	たけたし	24,423	3.1%	477.53	1954.3.31
豊後大野市	ぶんごおおのし	39,452	5.0%	603.14	2005.3.31
由布市	ゆふし	34,702	4.4%	319.32	2005.10.1
日出町	ひじまち	28,221	3.6%	73.33	1954.3.31
計		<b>787,663</b>	100.0%	2,471.67	



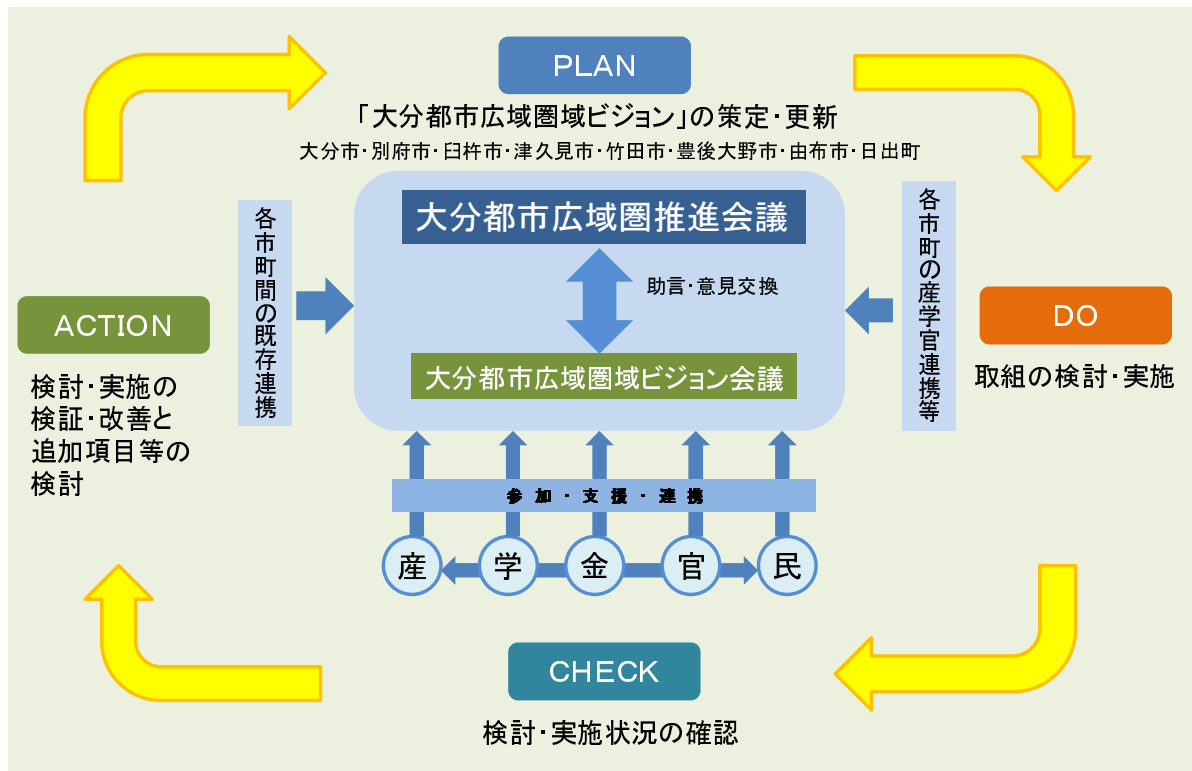
### 3. 取り組みの期間

平成 28 年 4 月～平成 33 年 3 月までの 5 年間

### 4. 推進および検証体制

平成 27 年 10 月 5 日に連携する市長、町長から構成する「大分都市広域圏推進会議」を設立し、また、各市町の企画部門で構成する「大分都市広域圏推進会議幹事会」や連携項目ごとの専門部会を設置し、広域連携を推進しています。これらに加え、産学金官の外部有識者から構成する「大分都市広域圏域ビジョン会議」により広域連携の推進や取組の検証を行います。

図表 2 推進及び検証体制



## 5. 連携中枢都市圏および連携市町の概要

大分都市広域圏は大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町で構成します。圏域の人口はおよそ79万人、面積は約2,472km<sup>2</sup>です。

当圏域は、大分県の中部～南西部に位置し、東部の沿岸平野部は別府湾・豊後水道に臨み年間降水量1,600mm程度の瀬戸内側の気候帯に属しています。一方、南に祖母山、西に久住山がそびえる南西部では、沿岸平野部とは対照的に、年間降水量が1,800mm～3,000mm程度の南海型、2,000mm前後の九州山地型の気候帯に属し、大野川水系河川などの豊かな水源を育んでいます。標高も0mから久住山の約1,700mまで様々で、年間平均気温も山間部の13℃前後から平野部の16℃前後まで3℃程度の開きがあり、多様で豊かな自然環境の下、高品質で多様な農畜産物の生産が行われています。

圏域全体に広がる温泉は、日本一の湧出量と源泉数を誇り、温泉を中心とした観光振興が盛んな地域です。加えて、北九州を起点とし、大分・宮崎・鹿児島を結ぶ東九州自動車道、大分・熊本間を結ぶ中九州自動車道、重要港湾の大分港・別府港・津久見港、大分空港など陸・海・空の公共交通体系が充実し、東九州の玄関口としての機能を果たしています。1964年（昭和39年）に新産業都市、1984年（昭和59年）にはテクノポリス開発構想策定地域に指定され、重化学工業からIT関連の先端産業に至るまで、様々な企業が集積した工業都市としての側面も併せ持ちます。

これらのポテンシャルを最大限に活用するためにも構成市町の経済的な繋がりを強化し、住民の生活の更なる発展と充実を図ります。

図表 3 連携中枢都市圏の全体図



### ① 大分市

九州の東端、瀬戸内海の西端に位置し、温暖で豊かな自然環境に恵まれた人口約 48 万人の中核市です。古くから東九州の要衝地としての役割を担い、大友宗麟の統治の下では全国有数の貿易都市として栄え、現在も南蛮文化の薫るまちとして発展を遂げています。海上交通や高速道路の利便性を活かした新産業都市として、鉄鋼や石油化学など重化学工業を中心とした様々な企業が集積し、平成 27 年には東九州自動車道の全線開通や大分駅ビル「JR おおいたシティ」のオープンなど、東九州における経済活動の一拠点として今後の期待が高まっています。

### ② 別府市

緑豊かな山々や瀬戸内の青い海に囲まれた美しい景観に恵まれ、日本一の温泉湧出量・源泉数を誇り、全国有数の観光地として賑わう町です。県内では大分市に次いで 2 番目となる約 12 万人の人口を有し、市内の大学で学ぶ約 5,600 人の留学生が、市民と暮らしを共にする国際色豊かな都市としても成長を続けています。近年では温泉を活用した観光産業の振興を官民協働で推進するなど新たなまちづくりが進められています。

### ③ 臼杵市

戦国時代に大友宗麟の築いた丹生島城（臼杵城）の城下町であり、国際的な商業都市として栄えました。明治維新を迎えるまで 270 年余り続いた稲葉氏の統治時代には、城を中心とした町の整備が行われ、現在の風情ある町並みは当時の面影が遺されたものです。現在は約 4 万人の人口を有し、西日本一の生産量を誇る味噌・醤油を中心とした醸造業や、基幹産業のひとつである造船業を中心とした産業が営まれています。

### ④ 津久見市

温暖な瀬戸内海沿岸に位置し、風光明媚な自然環境と豊かな産業資源を有する町です。江戸時代から明治時代にかけてみかん栽培や石灰業を中心に栄え、大正から昭和の時代には市のシンボリックな存在である保戸島を中心としたまぐろ漁業も盛んに行われました。現在の人口は約 2 万人であり、日本一の埋蔵量を誇る石灰業や漁業などの産業振興はもちろん、安全・安心なまちづくりや観光振興にも取り組んでいます。

### ⑤ 竹田市

大分県の南西部に位置し、くじゅう連山、阿蘇山外輪、祖母山麓の豊かな自然に囲まれています。古くより岡城を中心に城下町として栄えたため、その城跡などの文化資源により自然のみならず歴史をも感じることでできる趣ある町です。現在約 2.4 万人の人口を有し、一日に数万トンの湧出量を誇る名水や肥沃な大地、夏季の冷涼な環境を活かした農業や、炭酸泉を誇る長湯温泉や四季折々に表情を変える久住高原などを活用した観光産業が基幹産業となっています。

### ⑥ 豊後大野市

大分市南部に隣接し、平成 27 年には中九州自動車道も開通しており、豊かな自然環境と利便性を併せ持った人口約 3.9 万人の町です。大野川水系の豊かな水と四季を通じて温暖な気候を活かした県内屈指の畑作地帯を形成し、古くから農業を基幹産業として発展してきました。本地域では阿蘇溶結凝灰岩より生成した溪谷や滝などの特異的な地形や磨崖仏や石橋などの地質遺産も有し、平成 25 年にはおおいた豊後大野ジオパークとして認定されています。

### ⑦ 由布市

温泉湧出量・源泉数ともに全国 2 位を誇る由布院温泉や、豊後富士とも呼ばれ山岳信仰の対象として崇められている由布岳、湖面から湯気が立ち上る金鱗湖など魅力的な観光資源を備え持ち、日本屈指の人気を誇る観光都市です。現在の人口は約 3.5 万人、大分県のほぼ中央部に位置し、交通の利便性から大分市のベッドタウンとしての役割も果たしています。

### ⑧ 日出町

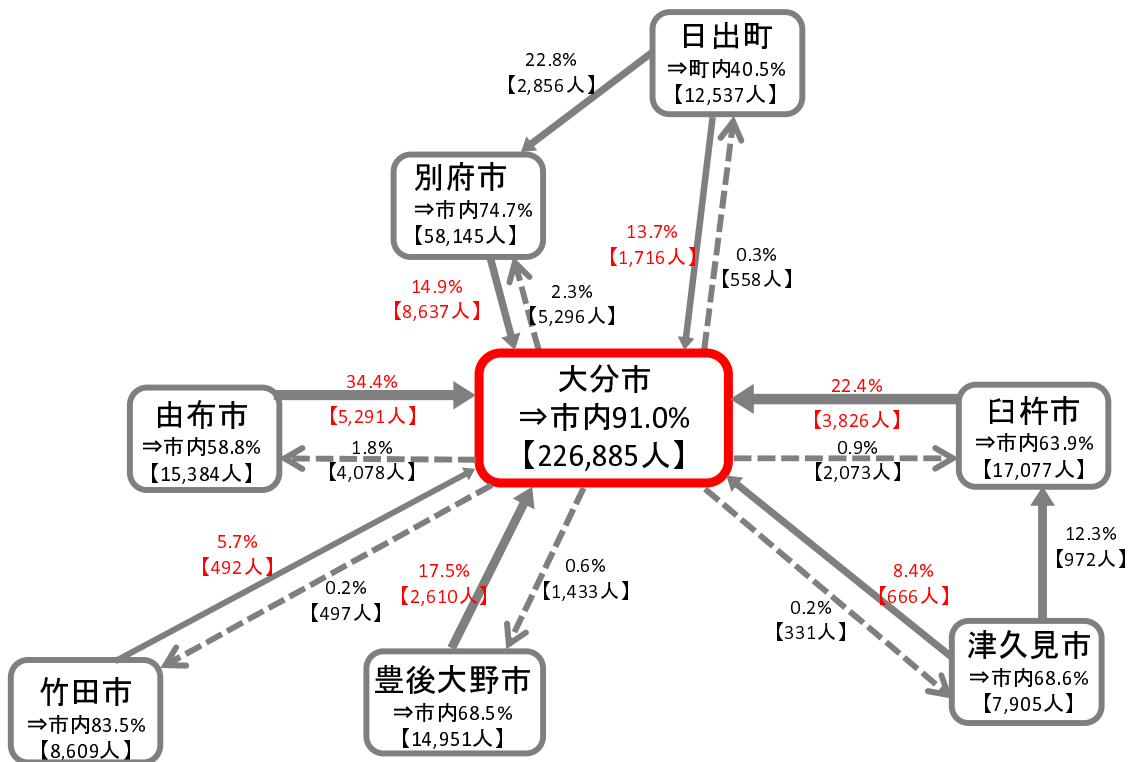
国東半島の南端部、別府湾沿岸に位置し、大分自動車道・宇佐別府道路・大分空港道路・日出バイパスなどの交差する交通の要所となっています。昭和 39 年には大分地区新産業都市開発地域に指定され、高度技術産業の集積が進み、以降人口は増加傾向にあり、現在の人口はおよそ 2.8 万人です。江戸時代に築城された日出城の城下町として栄えた歴史から、城址周辺や、かつてにぎわった豊後と豊前を往来するための山岳道、江戸の将軍にも献上されていた城下かれいなどの観光資源も多数有しています。



6. 連携市町から大分市への通勤・通学の状況

- ・ 大分市に住む就業者・通学者（自宅での就業者を除く）は 22.7 万人であり、そのうち約 9 割（91.0%）が大分市内へ通勤・通学しており、残りの 1 割程度は主に近隣市町へ通勤・通学しています。
- ・ 別府市・臼杵市・豊後大野市・由布市・日出町から大分市への通勤・通学者は、各市町の通勤・通学者の 10%以上を占めており、圏域内 7 市町から流入する大分市への通勤・通学者は合計 2.3 万人にのぼります。

図表 4 構成市町から大分市への通勤・通学状況



出所：国勢調査（2010年）※第5表 従業・通学市町村、15歳以上自宅外就業者・通学者数より

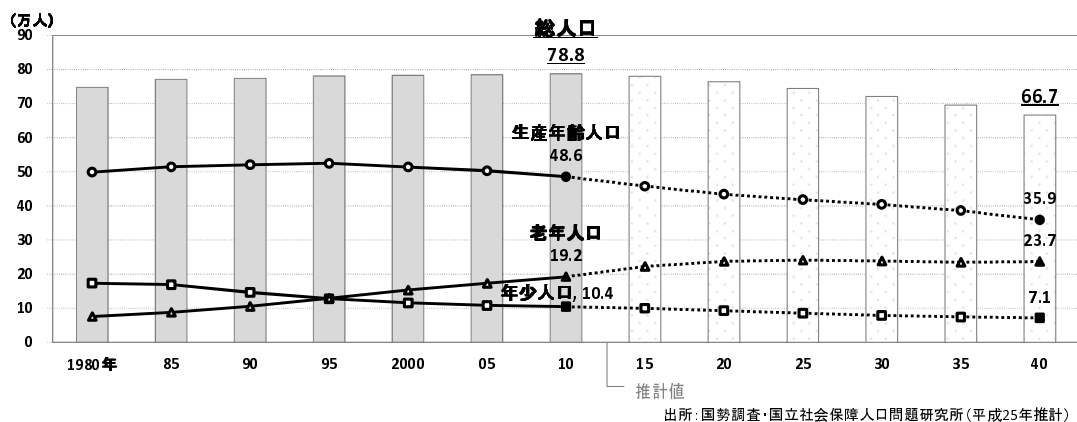
## 第2章 大分都市広域圏の現況

### 1. 人口の推移

#### <大分都市広域圏の人口構造>

- ・ 大分都市広域圏の人口は1980年の74.8万人から2010年の78.8万人まで増加を続けています。ただし、今後は人口減少に転じることが予想され、2040年には66.7万人となる見通しです。
- ・ 人口構造は年少人口・生産年齢人口の減少が続く一方で、2025年まで老年人口の増加は継続し、高齢化率は2010年の19.2%から2040年には23.7%に達する見込みです。

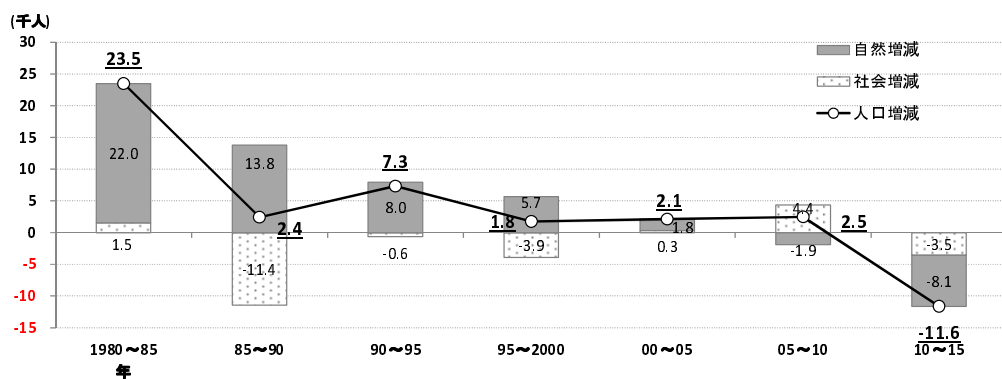
図表5 大分都市広域圏の人口推移（1980年～2010年実績値, 2015年～2040年推計値）



#### <大分都市広域圏の人口動態>

- ・ 自然動態は1980～2005年までの出生が死亡を上回る自然増加から、2005～2015年には自然減少に転じています。
- ・ 社会動態は1985～2000年までの社会減少から、2000～2010年は社会増加で推移していましたが、2010～2015年にかけて社会減少に転じています。その結果、自然減少と社会減少が同時に進む本格的な人口減少局面に直面しています。

図表6 大分都市広域圏の人口動態（1980年～2005年実績値, 2010年～2015年推計値）

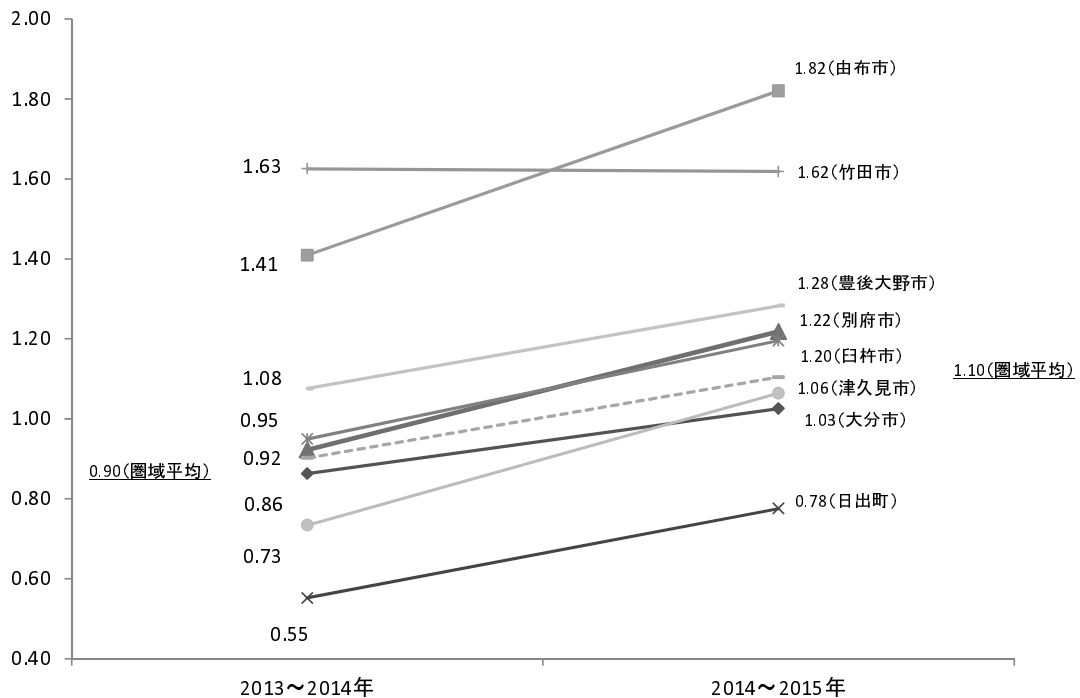


## 2. 雇用の状況

### <求人の動向>

- ・ 有効求人倍率（就業地ベース）は、圏域内の多くの市町で上昇しており、有効求人倍率の圏域平均は1.1と、求職者にとって雇用環境は好転していることが伺えます。ただし、雇用者側からは人手不足の状態にあるとも言え、求職者・雇用者間のミスマッチを解消し、良好な雇用環境を作ることが求められています。
- ・ 由布市・竹田市・豊後大野市は圏域平均を上回っているのに対して、日出町・大分市・津久見市は圏域平均を下回る状況です。

図表 7 大分都市広域圏の有効求人倍率推移（2013年9月～2015年8月）

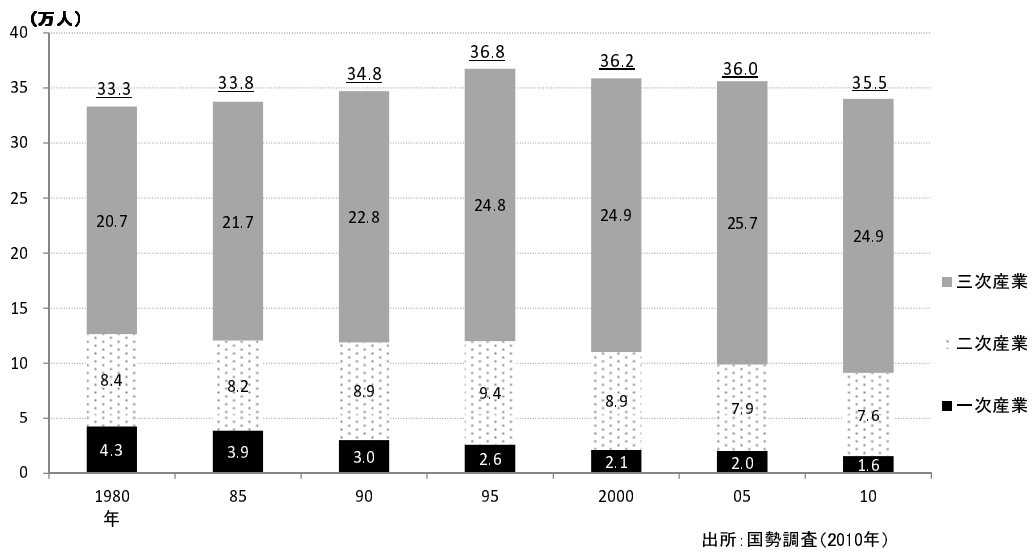


出所：大分公共職業安定所提供資料より(株)日本経済研究所作成

### <就業者数の推移>

- ・ 大分都市広域圏の就業者数は生産年齢人口の減少と同じく、1995年の36.8万人をピークに減少が始まり2010年は35.5万人でした。
- ・ 産業別には一次産業の就業者の減少が大きく、1980年から2010年で半数以上減少し、二次産業についても1995年の9.4万人から2010年には7.6万人に減少しています。

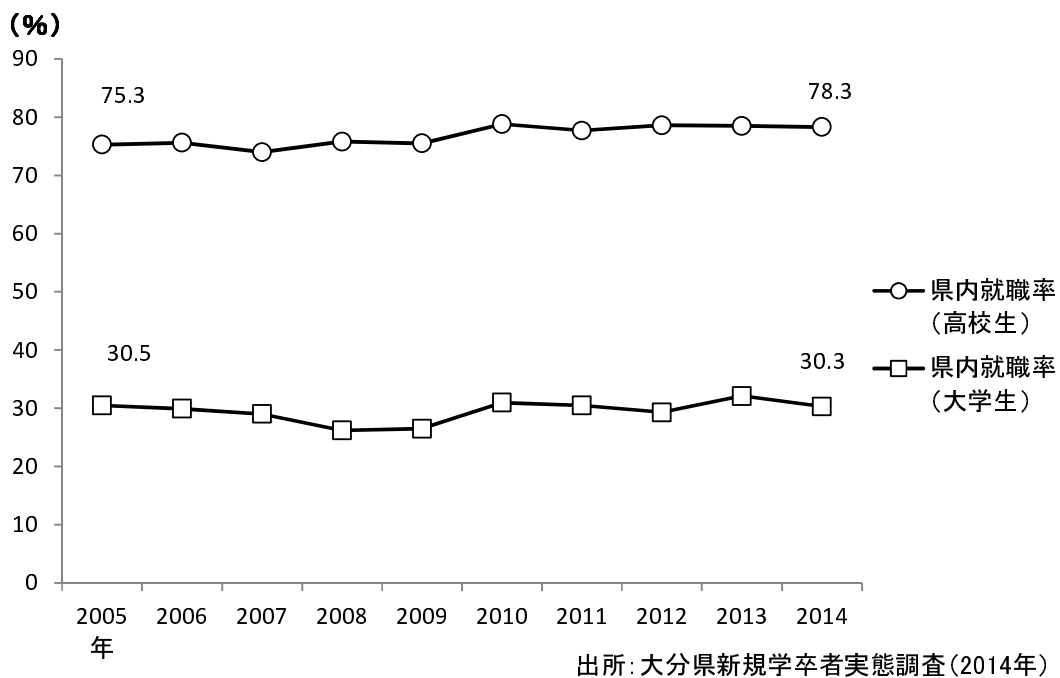
図表 8 大分都市広域圏の産業別就業者数推移（1980年～2010年）



＜若年層の就職動向＞

- ・ 大分県内の高校・大学を卒業した学生の就職先を見ると、高校卒業生の約8割が県内で就職しているのに対し、大学生では県内就職者が卒業生のおよそ3割にとどまり、残り7割が就職をきっかけに県外へ流出しています。
- ・ 今後は、高校卒業後はもちろんのこと、特に県内大学を卒業する学生が圏域内で就職する流れを作り出していくことが求められています。

図表 9 大分県内に立地する大学・高校卒業後の県内就職率推移（2005年～2014年）

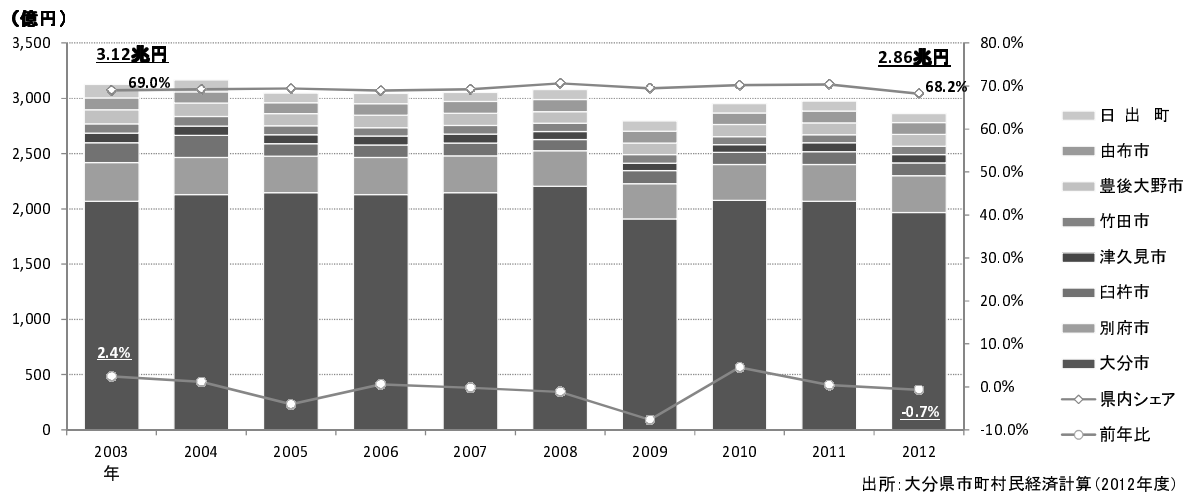


### 3. 産業構造

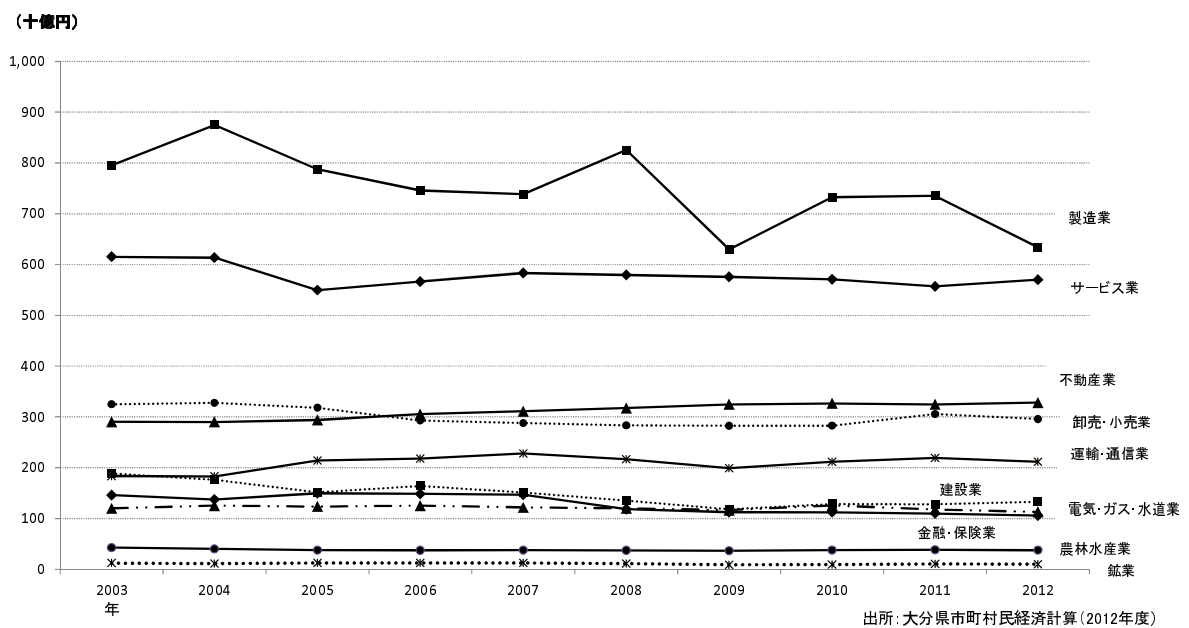
#### ＜圏域内総生産の推移＞

- ・ 圏内総生産（実額）は2008年の世界金融危機及び2011年の東日本大震災の影響から近年は漸減傾向にあり、2012年は前年比0.7%減少し、2.9兆円となっています。
- ・ 大分県内総生産に占める割合は2003年～2012年の10年間、およそ7割で推移しており、本圏域は県内経済に果たす役割は大きいと考えられます。
- ・ 産業別では、世界金融危機や東日本大震災の影響により製造業での落ち込みが見られる一方で、運輸・通信業、建設業、不動産業では伸びが見られます。

図表 10 大分都市広域圏域内の総生産額推移（2003年度～2012年度）



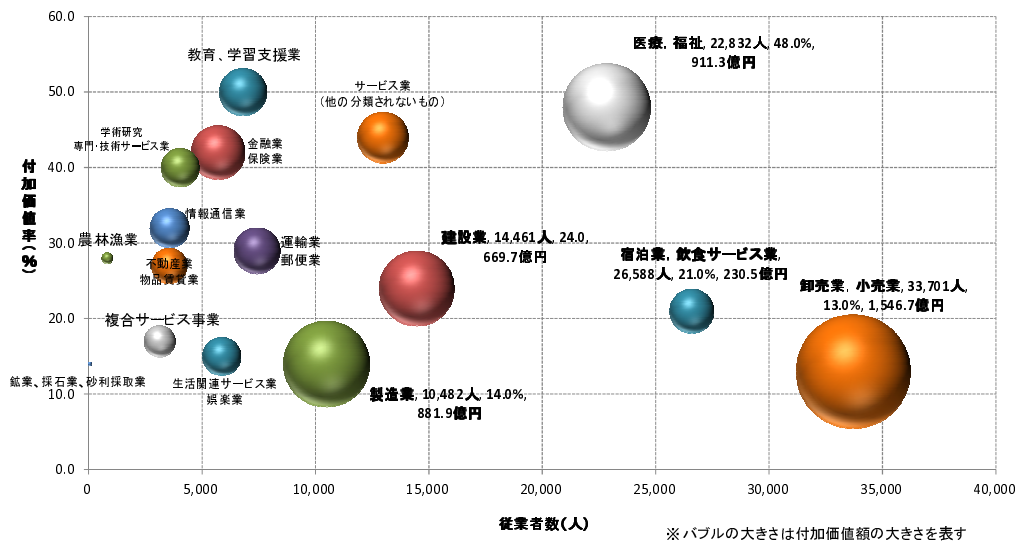
図表 11 大分都市広域圏内の産業別総生産額推移（2003年～2012年）



<圏域内の産業構造>

- ・ 大分都市広域圏経済の実態を、従業者数・付加価値率・付加価値額の観点から、産業ごとに分析した大分都市広域圏のバブルチャートでは、医療・福祉および卸売業・小売業が目立ちます。ただしこれらは域内の人口規模に比例する産業であり、将来的に人口減少が危惧される本圏域では域外から外貨を獲得する産業も強化しておく必要があるといえるでしょう。
- ・ 外貨を獲得する産業として、「宿泊業・飲食サービス業」、「製造業」が特に重要であると考えられます。
- ・ また圏域内の生活や経済循環を支える小売・サービス業等についても、買い物難民の発生が懸念される高齢化社会に対応した転換を図っていくことが求められます。

図表 12 大分都市広域圏内民営事業所の従業者数・付加価値率・付加価値額に関するバブルチャート（2012年）



出所：経済センサス活動調査(2012年)  
 (注)事業所を調査対象としているため、個人事業主の多い農林漁業の値が小さくなるため、農林漁業については別に分析する必要がある(別掲)

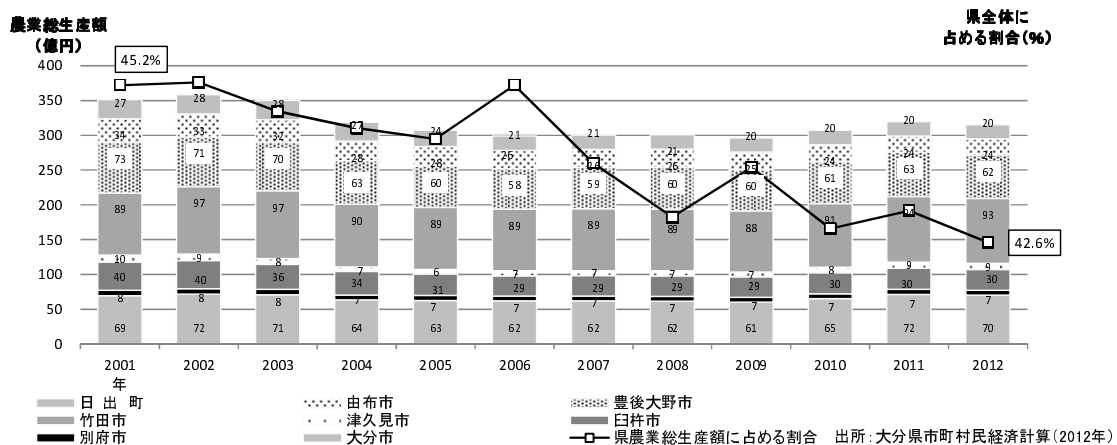
4. 主要産業の動向

1. 農林水産業

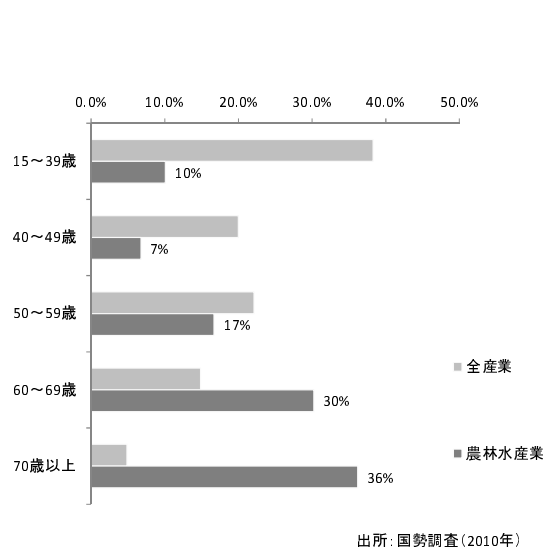
<農業>

- ・ 2001年以降の圏域内農業総生産額は漸減傾向にあり、2012年の大分都市広域圏の農業総生産額は約315億円、県内の農業総生産額に占める割合はおよそ5割（45.2%）でした。市町別では多い順に竹田市（約93億円）、大分市（70億円）、豊後大野市（62億円）となっています。
- ・ 圏域内の農業就業者数（従業地ベース）の年齢構成を見ると、60～69歳・70歳以上がおよそ7割を占めています。加えて総農家数は5年間で1,965軒減少している一方、土地持ち非農家数は781軒増加している状況です。

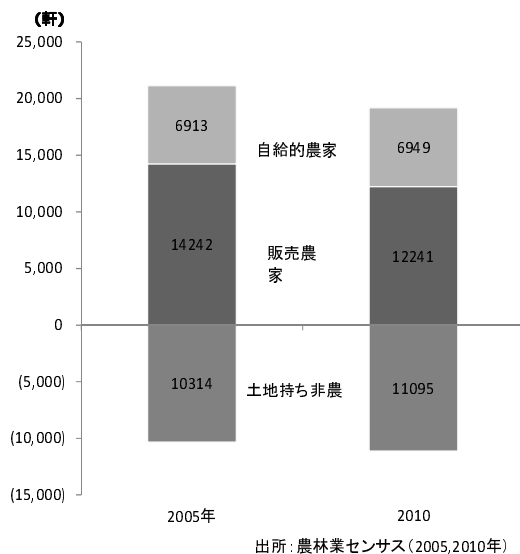
図表 13 大分都市広域圏内の農業総生産額推移（2001年～2012年）



図表 14 圏域内農業就業者の年齢構成（2010年）



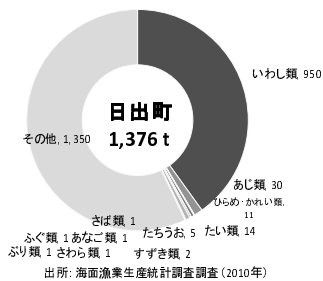
図表 15 圏域内農家数（2005年・2010年）



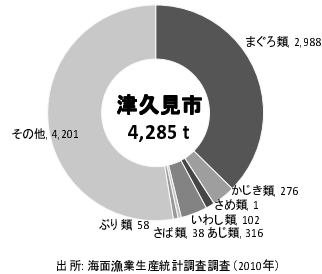
<水産業・林業>

- ・ 当広域圏の漁場は、豊後灘・別府湾から豊後水道北部にかけて広がっています。主に日出町沿岸部の豊後灘・別府湾地域ではタチウオや車エビ、シラスなどの漁場が形成され、クルマエビやマガキ等の養殖業が行われ、主に津久見市に位置する豊後水道北部はマグロやブリ、タイ、アジの漁場となっており、ブリ、クロマグロや真珠等の養殖業も営まれています。
- ・ 圏域内の林野面積は 154,101 ha で県内のおよそ 3 割程度を占めています。
- ・ 林業・漁業就業者数（従業地ベース）を見ると、水産業では 60 歳未満が約 5 割、林業では約 7 割となっています。一方で経営体数は水産業・林業ともに減少しています。
- ・ 今後も農林水産業の生産体制を維持するためには、若年層を中心とした担い手の育成が重要であると考えられます。

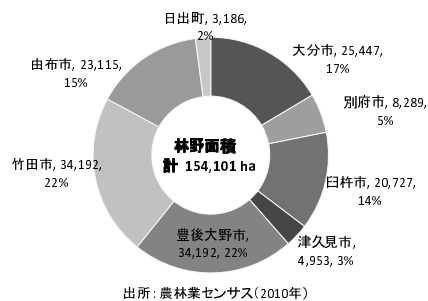
図表 16 魚種別漁獲量(2013年,日出町)



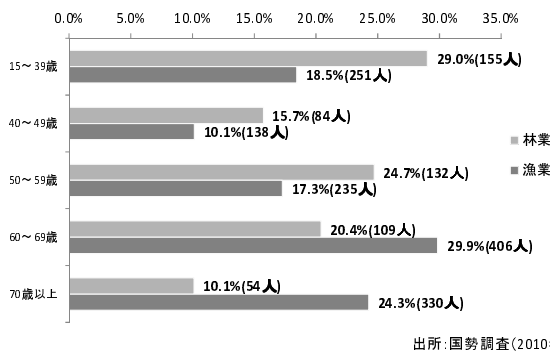
図表 17 魚種別漁獲量(2013年,津久見市)



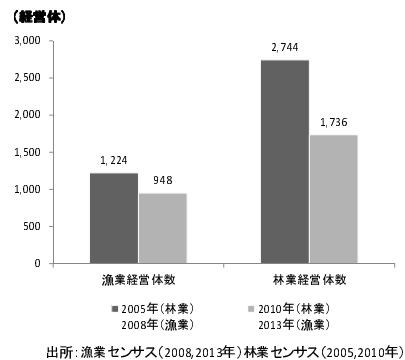
図表 18 構成市町別の林野面積 (2010年)



図表 19 圏域内漁業・林業就業者の年齢構成 (2010年)



図表 20 圏域内の漁業・林業経営体数



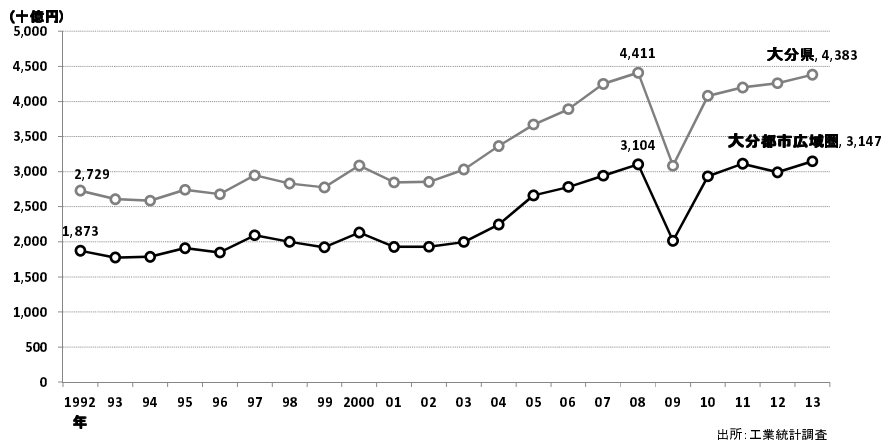


2. 製造業

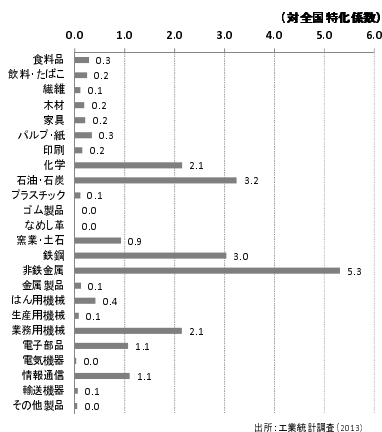
＜大分都市広域圏全体の動向＞

- ・ 大分都市広域圏の製造業は県の約7割のシェア（製造品出荷額等ベース）を有しており、1992年の1.9兆円から2008年の3.1兆円まで順調に成長しました。しかし、同年の米国投資銀行の破たんに端を発した世界金融危機により2009年は大幅に出荷額を減らした後、2013年は3.1兆円と金融危機前の水準まで回復し、過去最高水準に達しています。
- ・ 業種別の製造品出荷額・就業者数を見ると、当圏域ではコンビナートの立地を背景として化学、石油・石炭、鉄鋼、非鉄金属など、基礎素材型を主とする産業の集積が顕著となっています。今後はこれら基礎素材型製造業に加え、食品・機械製造等、幅広い分野での製造業の振興が求められています。

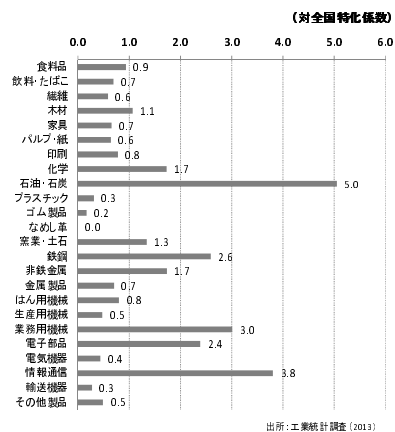
図表 21 製造品出荷額の推移（1992年～2013年、大分県および大分都市広域圏）



図表 22 製造品出荷額の対全国特化係数<sup>1</sup>



図表 23 製造業就業者数の対全国特化係数



<sup>1</sup>特化係数とは、産業の業種構成などにおいて、その構成比の全国比をいい、業種構成の全国との乖離を示し、地域で卓越した業種を見る指標である。ただし、この係数では、構成比の大きさ自体は問わないので、業種として比重の小さいものでも、特化しているような錯覚をもたらすので注意が必要である。

3. 商業

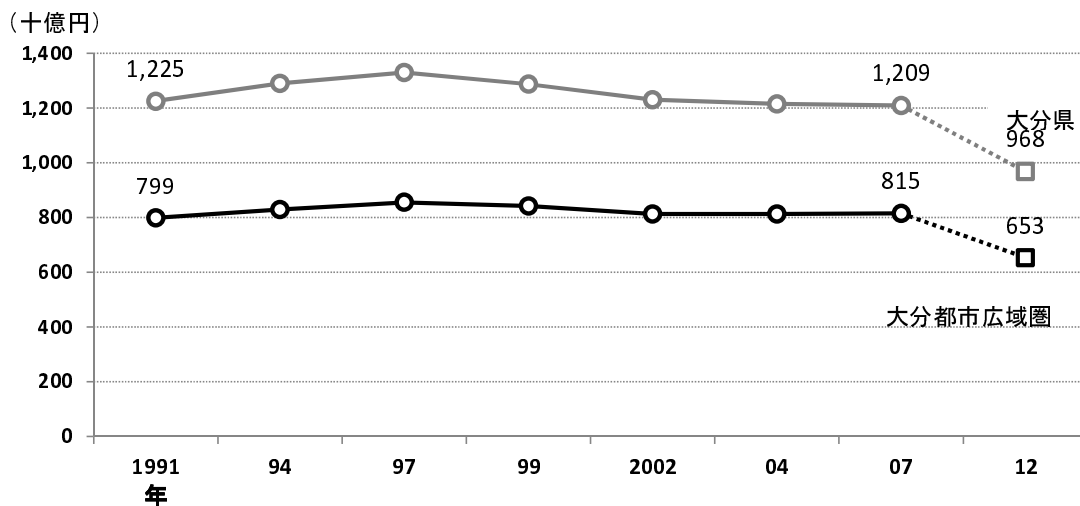
＜大分都市広域圏全体の動向＞

- ・ 大分都市広域圏の2012年の商品販売額は6,530億円であり、大分県内の商品販売額の約7割を占めています（2012年）。県全体の動向と同様に、1997年をピークに商品販売額は漸減傾向にあります。2015年4月の大分駅ビルの開業によって商業環境は大きく変化しつつあり、今後の発展が期待されます。

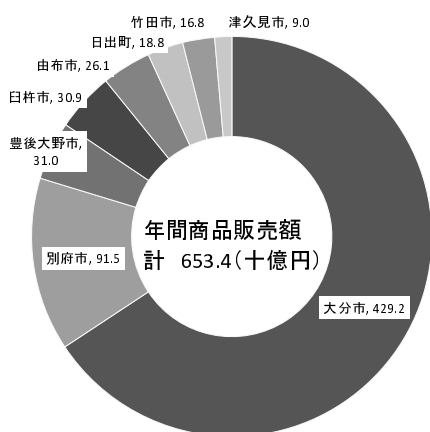
＜大分都市広域圏内での集中度＞

- ・ 年間商品販売額、売場面積は基本的に人口規模に比例することから、圏域内の主要都市が目立ち、特に大分市の商業集積は当圏内で大きな存在感を有しているといえるでしょう。

図表 24 年間商品販売額（1991年～2012年、大分県および大分都市広域圏）

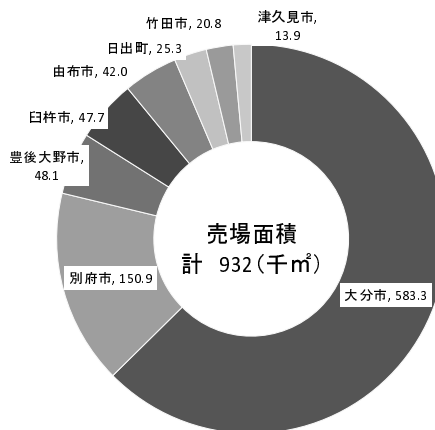


図表 25 構成市町別の年間商品販売額（2012年）



出所：工業統計調査（2013年）  
\* 製造業出荷額等は市町・業種によっては秘匿値を含んでいる

図表 26 構成市町別の売場面積（2012年）



出所：工業統計調査（2013年）  
\* 製造業出荷額等は市町・業種によっては秘匿値を含んでいる

4. 観光

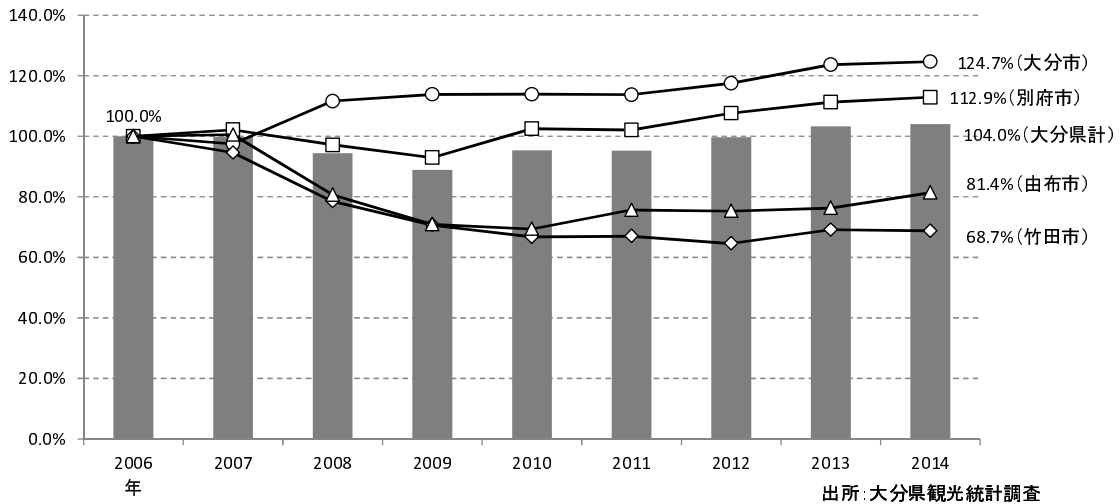
<宿泊客数の推移>

- ・ 2014年の県内宿泊者数は、2006年以降過去最高の433.5万人でした。圏域内主要観光市の動向をしてみると、大分市・別府市は、2006年時と比較した場合に増加基調にあります。一方で、竹田市・由布市の宿泊者数は、2007年～2009年の3カ年の間3割程度減少して以降回復の兆しはあるものの、2006年時の水準には戻っていない状況です。今後の人口減少社会では交流人口の獲得が、経済に与える影響は大きくなっていくことから、圏域を挙げた観光の活性化が課題となっています。

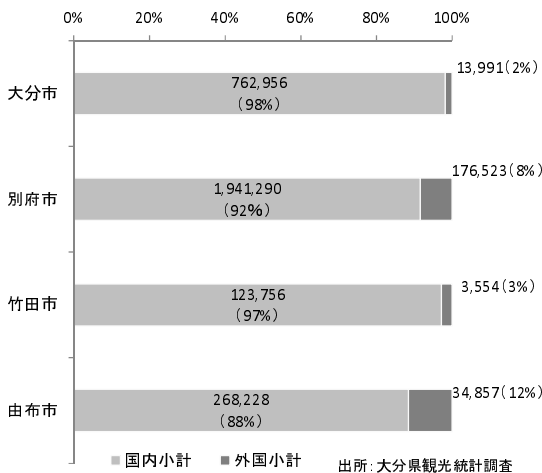
<インバウンド（宿泊者ベース）の状況>

- ・ 由布市、別府市では宿泊客全体の1割程度が国外出身観光客であり、今後広域圏内におけるインバウンド観光の拠点として期待されます。

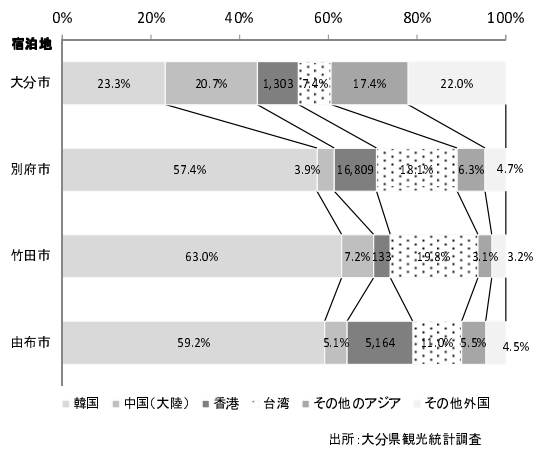
図表 27 大分都市広域圏主要市町の地域別宿泊客数推移の比較（2006年～2014年）



図表 28 広域圏内主要市における宿泊者の発地（2014年）



図表 29 広域圏内主要市における国外宿泊者の発地（2014年）



5. 都市機能の集積状況

1. 災害時対応に関する機能の集積状況

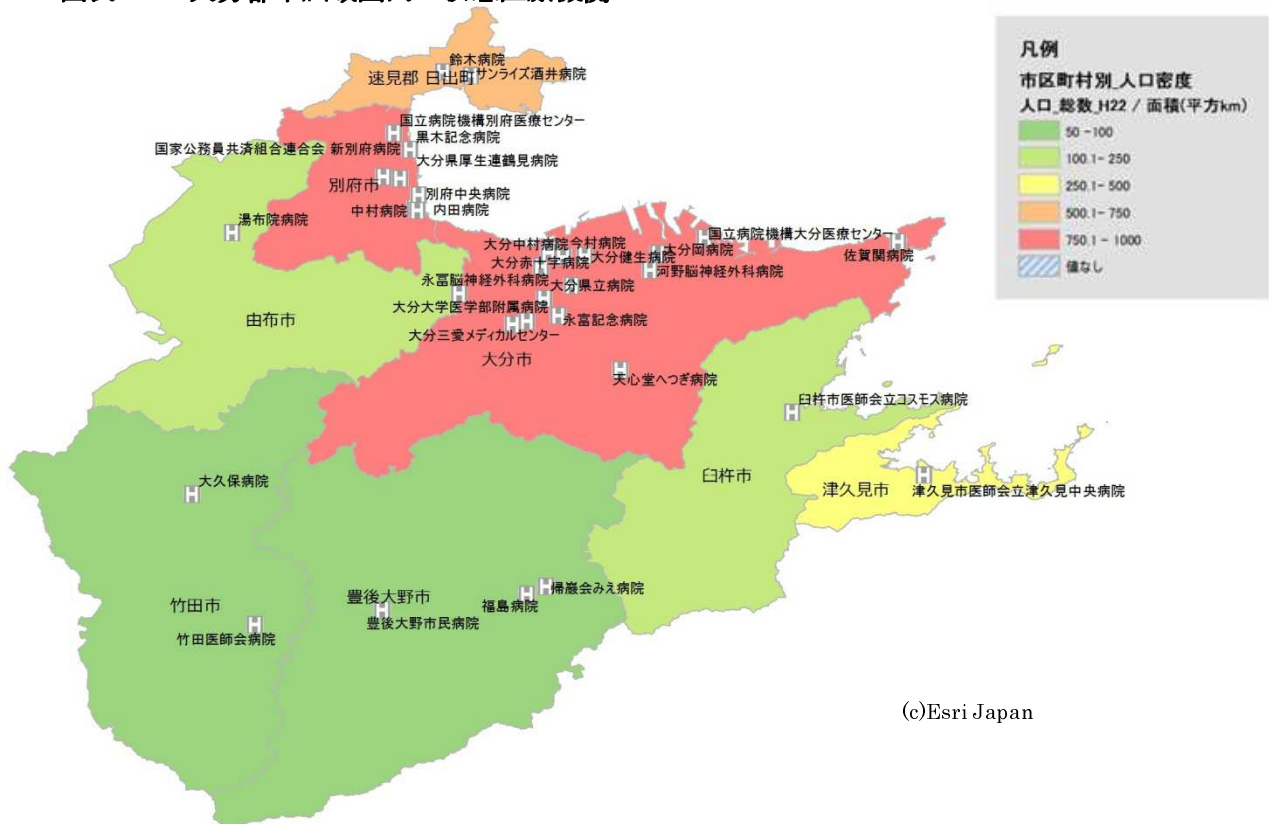
<圏域内の広域的な交通網>

- ・ 東九州自動車道と中九州自動車道の全線開通により、南九州（宮崎・鹿児島）、熊本との経済的・文化的な繋りの強化が期待されます。

<圏域内緊急関連医療機関一覧>

- ・ 第二次、第三次救急医療機関は人口密度の高い大分市・別府市を中心に集積している一方で、人口密度の低い地域では立地数が少ない状況にあります。

図表 30 大分都市広域圏内の救急医療機関

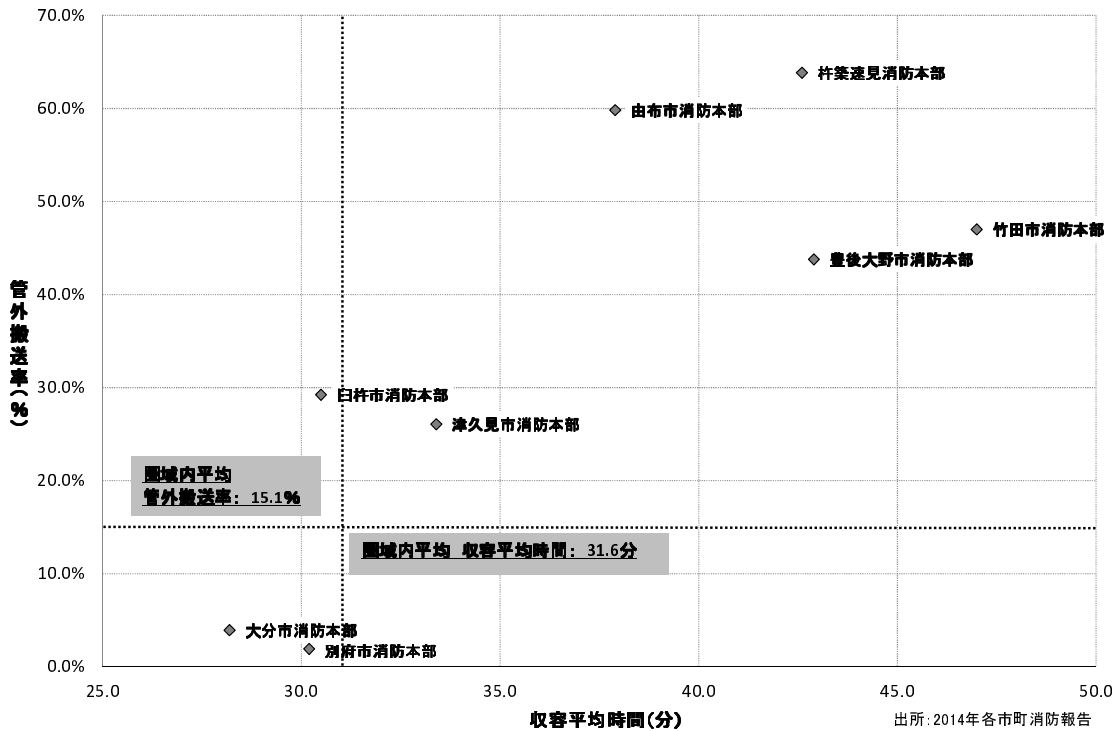


(c)Esri Japan

<圏域内の各消防本部における救急出動、搬送状況>

- ・ 大分市、別府市、臼杵市、津久見市の消防本部は比較的管外搬送率が低く、収容平均時間は圏域全体の平均を下回るか同程度にあります。一方で、豊後大野市、由布市、竹田市、杵築速見消防本部では管外搬送率が高く、収容平均時間は圏域全体の平均よりも長いことが分かります。
- ・ 今後、南海トラフ、日向灘、安芸灘～伊予灘～豊後水道を震源とする海溝型地震、別府湾一日出生断層帯、大分平野－湯布院断層帯、周防灘断層部を震源とする活断層型地震による被害や津波の来襲が想定されるため、自治体間の垣根を除いた広域体制下での災害時対応が求められています。

図表 31 大分都市広域圏内の救急出動搬送状況（2014年）



2. 高等教育機関の集積状況

<圏域内の高等教育機関>

- ・ 10校の高等教育機関が5市13カ所に立地しています。
- ・ 文部科学省「知（地）の拠点事業（COC+）」を始めとして、今後は民間企業や地方公共団体など既存の枠組みを超えた連携強化により、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上など地域を担う人材育成を行うための拠点として期待されています。
- ・ 当県域には多文化・多言語環境によりグローバル環境下で通用するプロフェッショナル人材の育成に特化した大学も存在し、世界的にも重要な役割の一端を担っています。

図表 32 大分都市広域圏内の高等教育機関一覧

市町名	大学名	主な学部(学科)	学生数(人)			教員数(人)
			大学	大学院	計	
大分市	大分大学 且野原キャンパス	経営学部、教育福祉科学部、工学部	4,107	583	4,690	720
由布市	大分大学 挾間キャンパス	医学部 医学科、看護学科	923	130	1,053	192
大分市	大分県立看護科学大学	看護学部	328	54	382	63
大分市	日本文理大学	工学部、経営経済学部	1,685	15	1,700	205
大分市	大分短期大学	園芸科	79	-	79	12
大分市	大分県芸術文化短期大学	美術、音楽、国際、情報	884	-	884	48
竹田市	大分県芸術文化短期大学 竹田キャンパス	美術(サテライトキャンパス)	-	-	-	1
別府市	別府大学	文学部、食物栄養、国際経営学部	1,744	32	1,776	158
別府市	立命館アジア太平洋大学	国際経営学部、アジア太平洋学部	5,581	300	5,881	370
別府市	別府溝部学園短期大学	ライフデザイン、食物栄養、幼児教育、介護	358	-	358	44
別府市	別府大学短期大学 別府キャンパス	食物栄養、初等教育、福祉	619	-	619	67
大分市	別府大学短期大学 大分キャンパス	保育、地域総合				
豊後大野市	大分県立農業大学校	総合農産科、総合畜産科	106	-	106	42
計			16,414	1,114	17,528	1,922

各大学HPより平成27年5月現在

6. 住民サービスの状況

1. 公共施設・公共交通関連サービスについて

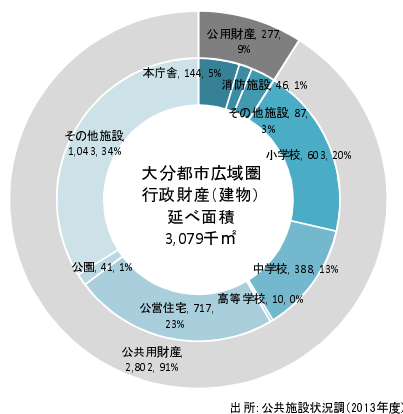
＜公共施設整備状況＞

- ・ 本広域圏の行政財産は総計 3,079 ㎡の延べ床面積を有し、そのうちおよそ 9 割を学校、公営住宅、公園などの公共用財産が占め、残り 1 割程度が本庁舎・消防施設などの公用財産となっています。
- ・ 生活インフラの整備状況として、道路は大分市、都市公園・公営住宅は豊後大野市、上水道は別府市、下水道は大分市が特に充実していると考えられます。
- ・ 例えば、図書館の回転率は貸出者数（利用者）の多さとは必ずしも比例せず各市町によって異なり、他公共施設の利用状況も同様の状況です。
- ・ 今後人口減少社会を迎えるにあたり、圏域内行政サービスのあり方の検討に際しては、利用・充足状況に基づいてきめ細かく再検討することが重要です。

図表 33 行政財産の状況（2013 年）

図表 34 各種生活インフラの整備状況

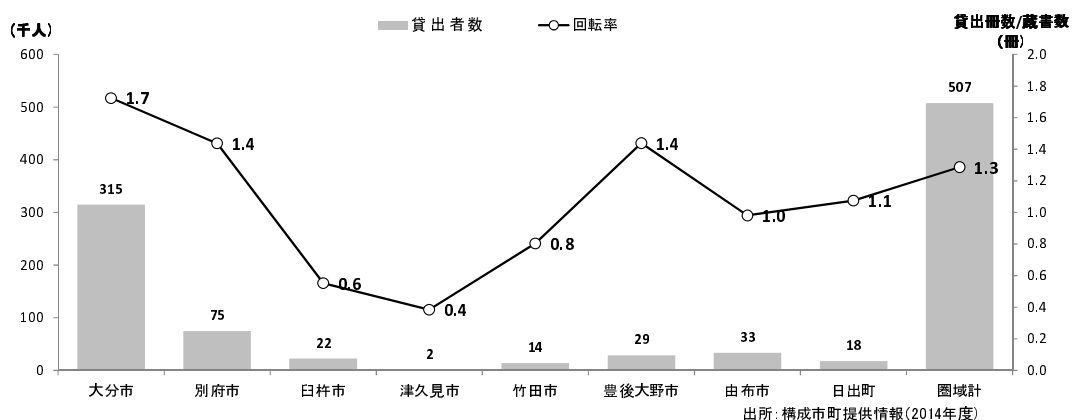
（2013 年度）



	道路改良率 (%)	都市公園等 1 人当たり面 (㎡)	公営住宅 世帯数比率 (%)	上水道等 普及率 (%)	下水道等 普及率 (%)
大分市	74.7	14.6	2.7	99.8	76.0
別府市	47.8	7.0	4.3	100.0	74.7
臼杵市	33.9	6.3	3.2	98.0	61.7
津久見市	41.5	9.9	3.4	97.3	59.1
竹田市	58.4	14.0	4.4	70.3	44.2
豊後大野市	49.5	19.4	6.2	68.4	55.0
由布市	60.6	2.6	4.1	95.5	61.0
日出町	61.4	19.3	2.4	93.8	73.7

出所：大分県統計年鑑(2014年度)

図表 35 構成市町別 図書館内蔵書の回転率 (2014 年度)

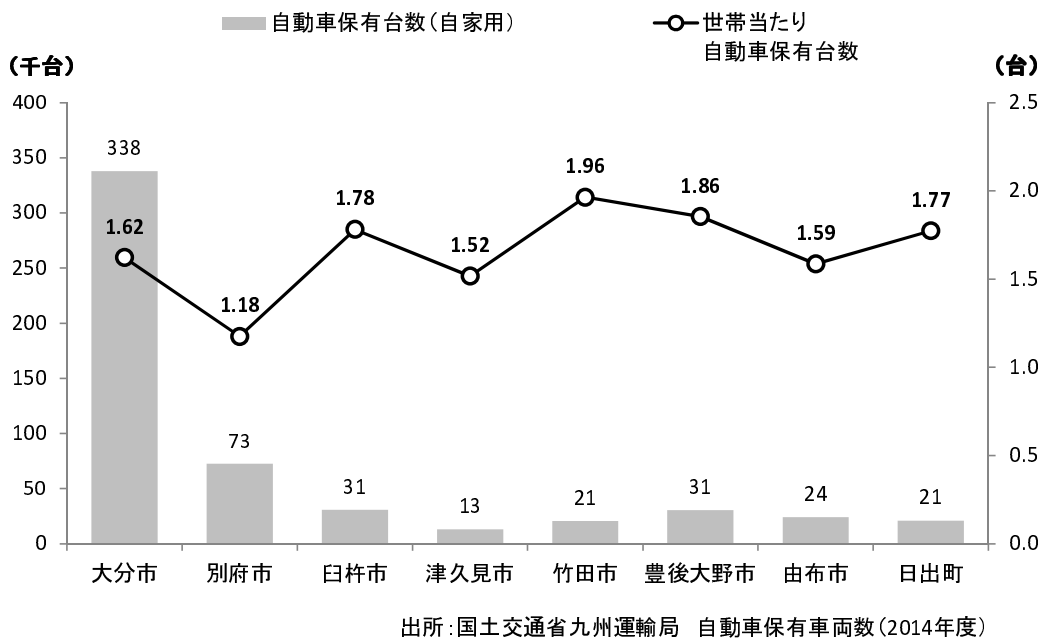


出所：構成市町提供情報(2014年度)

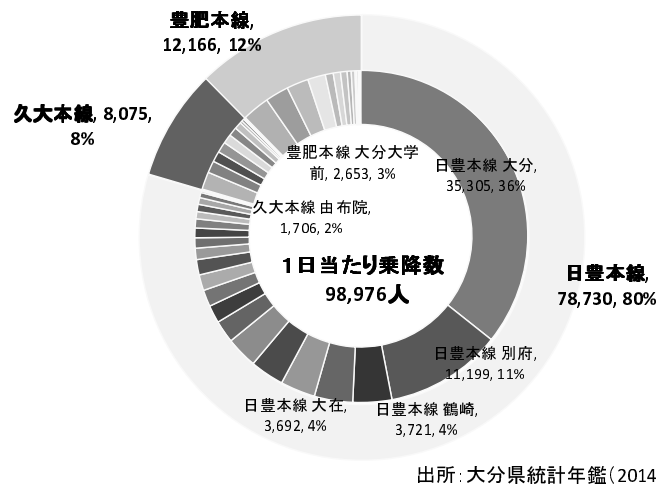
＜公共交通＞

- ・ 市町ごとの自動車保有台数（自家用）は人口規模に比例して多くなっていますが、世帯当たり自動車保有台数を見てみると、竹田市や豊後大野市の山間部で多くなっていることが分かります。
- ・ 圏域内を走る鉄道3路線について各駅の利用者数（1日当たり）について見ると、鉄道利用者全体の8割を日豊本線利用者が占める状況です。
- ・ 今後、超高齢社会への対応や環境への配慮を念頭に置いた場合、圏域全体の公共交通を充実させた自動車に頼らない生活環境の実現に関する検討が重要と考えられます。

図表 36 構成市町別 自動車保有台数（自家用）の状況（2015年3月31日時点）



図表 37 大分都市広域圏内の鉄道各駅別1日当たり乗降数(2013年度)



2. 医療・福祉関連サービスについて

＜医療施設・医師数＞

- ・ 大分都市広域圏では大分市・別府市に多くの一般病院が集積していることから、人口千人当たり病床数・医師数ともに大分県全体の水準よりも高い状況にあります。一方で、その他の5市町は病床数・医師数ともに県平均よりも低い水準にあります。
- ・ 特徴的なのは由布市であり、大分大学医学部附属病院の立地の影響などにより、人口千人当たりの医師数は突出して多くなっています。別府市も同様の傾向が見られ、同2地域は人口規模に関わらず、域外より患者を呼び込む構造になっていると考えられるため、今後圏域内周辺市や外部からの患者の誘致に繋がる可能性もあります。

図表 38 大分都市広域圏内の医療機関・医師数一覧

市区町村名	病院		診療所		歯科診療所	薬局	人口千人当たりの病床	医師(常勤)	人口千人当たりの医師
	病院	病床	診療所	病床					
大分市	53	7,478	385	1,646	223	220	19.2	599	1.3
別府市	26	3,811	119	647	60	66	35.6	337	2.7
臼杵市	4	493	33	116	17	18	14.7	22	0.5
津久見市	1	120	18	19	9	8	7.0	11	0.6
竹田市	3	504	23	130	8	9	26.0	14	0.6
豊後大野市	4	369	34	127	15	24	12.6	33	0.8
由布市	4	1,008	24	128	11	16	32.7	231	6.7
日出町	3	178	19	26	11	13	7.2	16	0.6
計	98	13,961	655	2,839	354	374	21.3	1,263	1.6

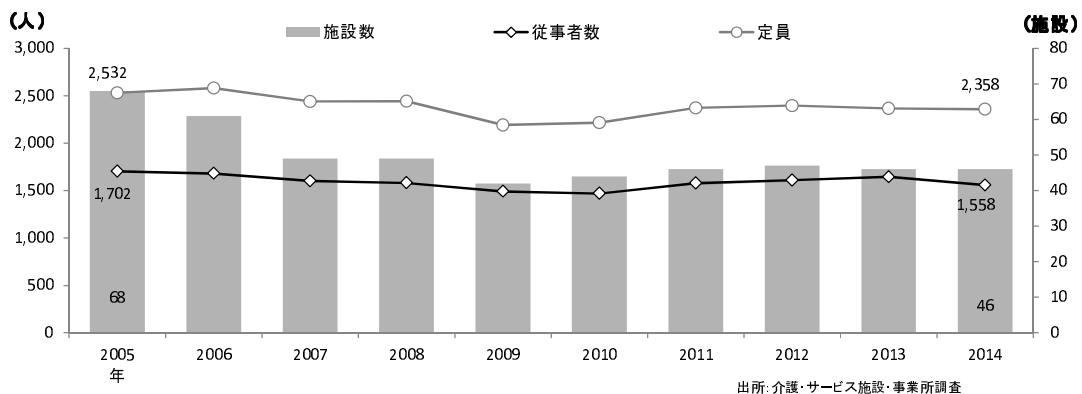
※院所数、ベット数、人

大分県H26統計年報より  
医師数はH24公衆衛生年報より

＜福祉施設・従業者数＞

- ・ 大分市の福祉施設数は直近10年で約3割程度、従業者数はおよそ1割減少したものの、受入定員数は横ばいの状況であり、今後高齢化の急速な進展が危惧される都市部における受入体制の整備が急務であると考えられます。

図表 39 大分市の介護老人福祉関連施設数等の推移（2005年～2014年）



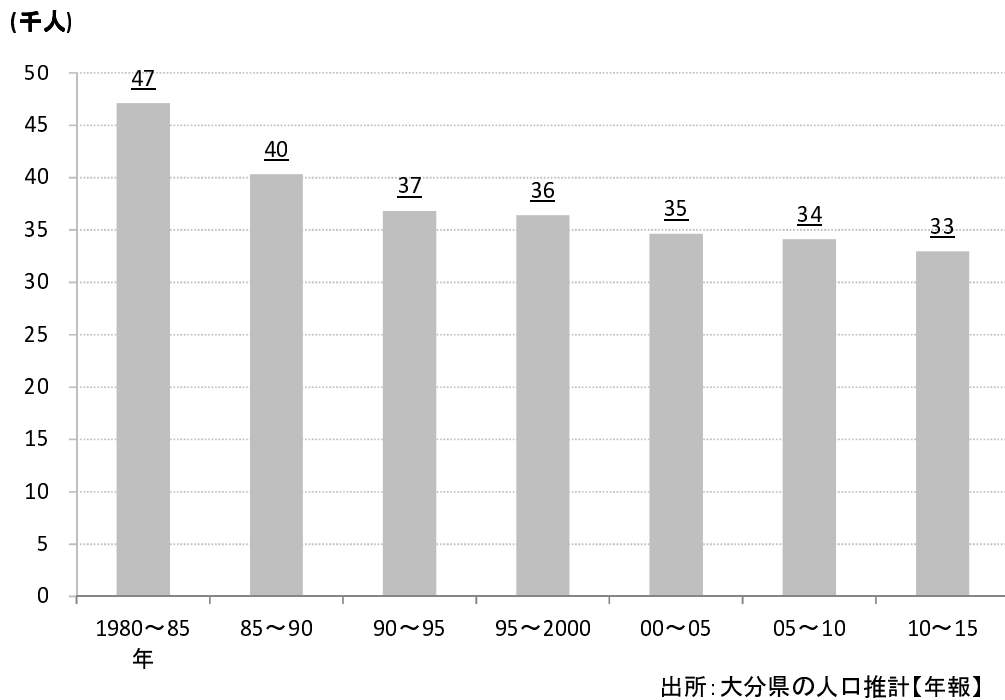


3. 子育て支援について

＜出生数の推移＞

- ・ 1985年以降、当圏域の出生数は減少傾向にあります。今後圏域内では、仕事を持つ母親が安心して子どもを産み育てることの出来る環境整備が求められていますが、平成27年4月1日現在、圏域内の待機児童数は509人であり、早急な行政支援を必要とする分野となっています。

図表 40 大分都市広域圏内の出生数の推移（1980年～2015年）



図表 41 大分都市広域圏内の保育園・保育所・幼稚園・待機児童数一覧

市町名	保育園・保育所(認定こども園含む)				幼稚園				待機児童数
	公立		私立		公立		私立		
	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	
大分市	13	1,179	74	8,696	29	950	20	3,360	484
別府市	3	253	26	1,895	15	-	7	1,105	-
臼杵市	1	67	10	766	6	52	2	280	-
津久見市	-	-	4	245	-	-	5	380	-
竹田市	3	258	5	164	3	67	1	55	-
豊後大野市	1	70	10	687	6	93	2	80	25
由布市	-	-	8	865	14	-	-	-	-
日出町	-	-	8	619	7	165	1	74	-
計	21	1,827	145	13,937	80	1,327	38	5,334	509

各市町調べ平成27年5月現在





### 第3章 圏域の目指す方向性

#### 1. 大分都市広域圏のポテンシャル

本圏域は圏域最大の地域資源の一つである日本屈指の湧出量・源泉数を誇る温泉をはじめとして、多様なポテンシャルを有しています。

##### （1）豊かな地域資源

南蛮文化発祥の地の1つである本圏域にはキリシタン文化や多くの歴史遺産があります。緑豊かな地域では高品質で多様な農産物、リアス式海岸と天然礁に恵まれた豊後水道沿岸地域ではブランド価値の高い水産物が生まれ、7市1町それぞれが豊かで特徴的な地域資源を有しています。それら豊かで魅力的な地域資源と本圏域の誇る温泉を融合させた**日本有数の観光地**として毎年多くの観光客が訪れています。

##### （2）製造業の集積

高度経済成長期に大分市を中心に新産業都市として、化学・石油石炭・鉄鋼・非鉄金属など重化学工業を中心に発展を遂げ、近年ではIT関連企業が進出するなど様々な産業が集積しています。また、食料品産業は臼杵市・由布市、窯業・土石製造業は津久見市、輸送用機械器具製造業は臼杵市等、各地の特色を活かした産業拠点が形成され、**東九州の経済の要衝**として発展を続けています。

##### （3）交通の利便性

当圏域は、東九州自動車道と大分自動車道、中九州自動車、大分空港道路の結節点であり、また鉄道に関しても、日豊線、豊肥線、久大線の結節点でもあり、さらに重要港湾である大分港、大在港や四国との九州を結ぶ第二国土軸の重要な地域であるなど**東九州地方における交通・物流機能の拠点**として役割を果たしています。

#### 2. 大分都市広域圏の目指す姿

今後も、域内経済の発展と定住環境の整備、住民の生活機能の確保や充実を図り、将来にわたって発展し続ける社会を実現するための戦略として大きく3つの方向性を定め、産学金官が連携して取り組みを推進していきます。

##### （1）産業『圏域全体の経済成長のけん引』

人口減少や少子化、高齢化の影響により、就業者数は今後減少し続けるため、圏域内経済の生産・消費活動の減衰が懸念されています。圏域内経済の停滞による雇用機会の減少は、都市部への若者の流出につながり圏域内の少子化および高齢化を加速させるおそれがあるため、本圏域では既存のポテンシャルを十分に活用しつつ経済基盤の強靱化を図り、圏域全体の経済成長をけん引していきます。

（２）都市機能『高次の都市機能の集積・強化』

平成27年に新たに開通した東九州自動車道や中九州自動車道、大分駅ビル「JRおおいたシティ」のオープンなど、東九州の玄関口としての位置的役割が向上しつつあります。また、本圏域内には特色ある高等教育機関が集積しており、従来の枠組みを超えた積極的な活用が検討されているところです。今後は高次都市機能の集積・強化により都市圏としての魅力を高めてまいります。

（３）住民サービス『圏域全体の生活関連機能サービスの向上』

人口減少や高齢化の影響により過疎化が進行する地域では、将来的に一定の住民サービスを受けられなくなる可能性が出てきます。医療・福祉、交通、教育などの公共サービスの機会・質の低下は、住民の生活基盤を揺るがしかねず地域外へのさらなる人口流出を引き起こす可能性があります。今後、行財政の制約が高まっていく中で、市町村が単独であらゆる公共施設等を揃えるといったフルセットの行政から脱却し、地域間のネットワーク化により圏域全体の生活関連機能サービスの向上を図ります。

◆ 大分都市広域圏の将来像

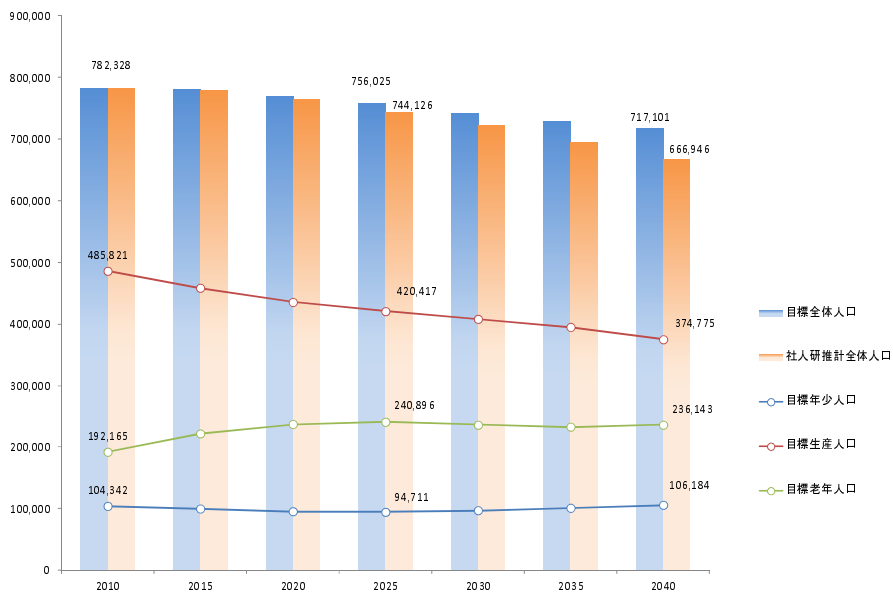
『○○○○ 大分都市広域圏』

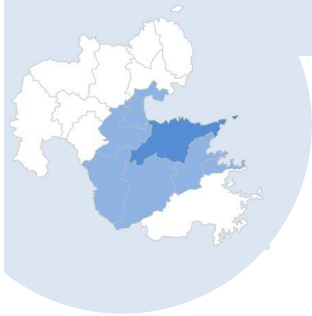
◆ 10年後の人口目標 2025年（平成37年）

圏域人口目標：75.6万人

※圏域各市町の地方創生人口ビジョンより

図表 45 10年後の人口目標 2025年（平成37年）





### 3. 圏域づくりの考え方

#### 方向性

#### 基本方針

#### 基本連携項目(案)

#### 産業

圏域全体の  
経済成長の  
けん引

- 人口減少や少子化、高齢化の影響により、就業者数は今後減少し続けるため、圏域内経済の生産・消費活動の減衰が懸念される。
- 圏域内経済の停滞による雇用機会の減少は、都市部への若者の流出につながり、圏域内の少子化、高齢化を加速させるおそれがある。

経済基盤の強靱化を図り、  
圏域全体の経済成長をけん引する

**○既存のインフラを活用した産業振興**  
大分市を中心とした重化学工業の集積や、津久見市の窯業・製造業、臼杵市・日出町を中心とした食品製造業など、各市町の特色を活かした圏域全体の産業振興を行い、雇用の確保を図る。

**○新たな回遊型観光業の振興**  
別府・湯布院など全国屈指の観光都市を核として、温泉と歴史文化、都市型観光を融合させた新たな回遊型観光を提案することにより、圏域全体の観光振興を図る。

**○一次産業と食品関連産業の連携**  
竹田市や豊後大野市を中心とした農業、豊後水道沿岸を中心とした漁業の一次産業等、各地に集積する食品製造業、宿泊・飲食サービス業などの食品関連産業の相互連携による地場産品の商機拡大を図る。

- 圏域を構成する各市町の特色を十分に活かした経済成長のための体制整備
- 中小企業の経営強化、創業促進、地域の中堅企業等を核とした産業の育成
- 企業誘致の促進
- 地域資源を活用した地域経済の裾野拡大
- 戦略的な観光連携

#### 都市機能

高次の  
都市機能の  
集積・強化

- 新たに開通した東九州自動車道や中九州自動車道、大分駅ビル「JRおおいたシティ」のオープンなど、東九州の玄関口としての位置的・機能的役割が向上している。
- 特色ある高等教育機関が集積し、従来の枠組みを超えた積極的な活用が検討されている。

高次の都市機能の集積・強化により  
都市圏としての魅力を高める

**○連携中核都市を核とした広域ネットワークの構築**  
大規模な災害にも対応可能な都市機能の構築や公共交通網など、圏域全体に対する高度で専門的なサービスの提供により、都市としての魅力を高め、若者の大都市への流出を防ぐとともに圏域外から多様な人材を誘致する。

**○高等教育機関と連携した人材育成体制の強化**  
大学・民間企業・自治体の連携体制のもと、特に20代の若者を対象として、将来的に圏域を担う存在となり得る人材育成に取り組む。

- 広域的災害等に関する機能の構築
- 広域的公共交通網の構築
- 高等教育・研究開発の環境整備

#### 住民サービス

圏域全体の  
生活関連機能  
サービスの向上

- 人口減少や高齢化の影響により過疎化が進行する地域では、将来的に一定の住民サービスを受けられなくなる可能性が出てくる。
- 医療・福祉、交通、教育などの公共サービスの機会・質の低下は、住民の生活基盤を揺るがしかねず、地域外へのさらなる人口流出の恐れがある。

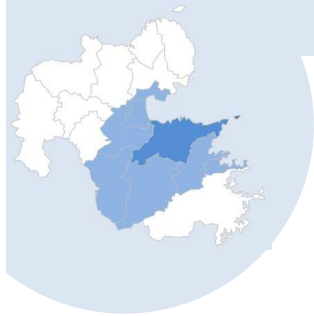
地域間のネットワーク化により、  
圏域全体の生活関連機能サービスを向上させる

**○良質な生活環境の整備による定住促進**  
医療・福祉、交通、教育サービスが整い、若年層から高齢者までの幅広い世代の住民が安心して定住し続けることのできる環境整備を図る。

**○生活関連機能の広域ネットワーク化**  
公共施設や公共交通、その他のインフラの集約化およびネットワーク化を図り、限りある資源を意識しつつ、効率性や機能性を重視した次世代の仕様へと移行可能な体制を整える。

**○圏域マネジメント能力の強化**  
圏域内の円滑な運営を図るため、自治体間の有機的連携体制の下、職員の資質向上を図る。

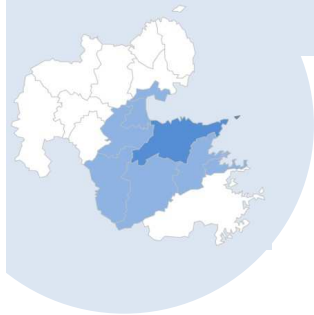
- 公共施設の相互利用の促進
- 健康診断の受診率の向上
- 相談支援機能の強化
- 地域子育て支援の充実
- 広域的教育の連携
- 文化芸術の振興
- スポーツの振興
- 文化財等の保護及び活用
- 雇用対策
- 市民活動の推進
- 広域的災害対策
- 一般廃棄物の広域処理
- 特定外来生物の広域防除
- 水源流域の水環境改善
- 救急搬送体制の連携強化の推進
- 地域公共交通ネットワークの維持・形成
- 広域幹線道路網の整備促進
- 広域情報ネットワークの整備(Wi-Fi)
- 生産振興に向けた取組
- 有害鳥獣の広域防除
- 農林水産物の消費拡大への取組
- 移住・定住対策
- 人材育成・交流



## 第4章 将来像の実現に向けた取組

### 大分都市広域圏の連携項目と取り組み内容(案)

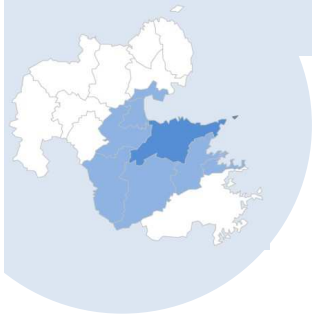
大項目	中項目	小項目 1	小項目 2	取り組み内容
(1) 圏域全体の経済成長のけん引				
		i.	圏域を構成する各市町の特徴を十分に活かした経済成長のための体制整備	圏域内の企業、大学、研究機関、金融機関、連携する市町等が一体となった経済戦略推進体制の構築。
		ii.	中小企業の経営強化、創業促進、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成	圏域の経済戦略に基づき、圏域の産業の戦略育成に取り組む。
		iii.	企業誘致の促進	圏域の経済戦略に基づき、圏域への企業誘致に取り組む。
		iv.	地域資源を活用した地域経済の裾野拡大	圏域の経済戦略に基づき、圏域内の異業種間の連携を推進させるとともに、多彩な地場産品のブランドの育成や販路拡大に取り組む。
		v.	戦略的な観光連携	圏域の経済戦略に基づき、周遊型観光ルートの造成やMICEの誘致に取り組む。
(2) 高次の都市機能の集積・強化				
		i.	広域的災害等に関する機能の構築	広域的な災害対応の充実のため、大分県と協力しながら広域応援体制の整備や災害時備蓄品の充実など、応援体制の確立を図るとともに、災害時の自治体間連携に取り組む。
		ii.	広域的公共交通網の構築	圏域全体に対する高度で専門的な都市的サービスを提供し、圏域の内外から多様な人々が集まり、また、大都市への若者の流出に歯止めをかける環境を構築する役割を担っていくため、魅力的でより質の高い都市的サービスを提供する高次都市機能の集積した中心拠点としての広域的公共交通網の構築に取り組む。
		iii.	高等教育・研究開発の環境整備	将来の圏域を担う人材の育成を支援するため、高等教育・研究開発環境の整備に取り組む。



大分都市広域圏の連携項目と取り組み内容(案)

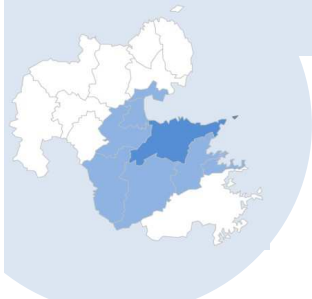
大項目	中項目	小項目1	小項目2	取り組み内容
				(3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上
				ア 生活機能の強化に係る政策分野
				(7) 公共施設利用
			i 公共施設の相互利用の促進	圏域内の公共施設の相互利用を進め、住民活動を支援するとともに、公共施設の利用及びサービスの充実を図る。
			(4) 地域医療・福祉	
			i 健康診断の受診率の向上	住民が地域で安心して生活を営めるよう、健康診断の受診に係る啓発及び情報共有に取り組むとともに、検診受診率向上を図るなど、健康管理に係る連携を推進する。
			ii 相談支援機能の強化	高齢者や障がいのある方等が、地域で安心して生活を営めるよう、相談体制や普及啓発に係る連携強化を図るなど支援体制の充実に取り組む。
			iii 地域子育て支援の充実	地域で生まれた子どもたちを社会全体で育てていくため、子どもを産み、育てやすい地域を目指して、子育て支援サービス等の質の向上・改善等を図るための連携を推進する。
			(6) 教育・文化・芸術・スポーツ	
			i 広域的教育の連携	学校や地域の実情に応じ特色ある教育活動を生かした交流等による連携を図る。
			ii 文化芸術の振興	地域の特色ある文化芸術活動を推進し、圏域内外の交流を促すことにより、交流人口の拡大及び地域の活性化を図る。
			iii スポーツの振興	スポーツ活動を通じた健康の保持・増進や地域交流を促進するため、住民が様々なスポーツに触れる機会を幅広く提供するなど、スポーツの振興に取り組む。
			iv 文化財等の保護及び活用	圏域の文化財等の保護に努め、それらを地域資源として活用し、地域の歴史・文化に対する住民の認識を高めるとともに、圏域内外の交流を促進する。





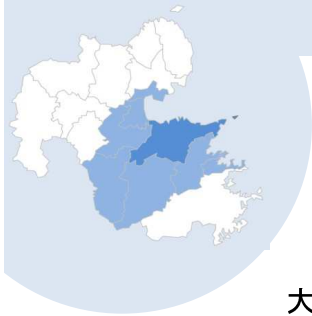
大分都市広域圏の連携項目と取り組み内容(案)

大項目	中項目	小項目 1	小項目 2	取り組み内容
				(3)圏域全体の生活関連機能サービスの向上
				ア.生活機能の強化に係る政策分野
				(イ)地域振興
			i.雇用対策	若年求職者や女性・UIJターン希望者等の就労につながる各種就労支援に連携して取り組む。
			ii.市民活動の推進	地域における市民活動を推進するため、地域住民とNPO団体や企業等との交流や活動の支援に取り組む。
			(オ)災害対策	
			i.広域的災害対策	大規模災害発生時等における相互応援の円滑化や地域防災力の向上を図るため、大分県と連携しながら減災・防災体制の充実を図る。
			(カ)環境	
			i.一般廃棄物の広域処理	資源循環型社会、低炭素社会の形成を図るとともに、一般廃棄物の広域的処理に取り組む。
			ii.特定外来生物の広域防除	生態系や人的、農林水産物等への被害を及ぼす恐れのある特定外来生物の市域内外からの一掃に向けて、連携して防除に取り組む。
			iii.水源流域の水環境改善	水源流域の現状把握や水資源としての水環境の有効的な改善を行うため、情報の共有や連絡体制の構築を図る。
			(キ)消防	
			i.救急搬送体制の連携強化の推進	大分県常備消防相互応援協定に基づき、消防活動はもとより、救急搬送に関しても広域的な視点に立ち、人命重視の救急活動を行い、救急搬送体制の連携強化に取り組む。



大分都市広域圏の連携項目と取り組み内容(案)

大項目	中項目	小項目 1	小項目 2	取り組み内容
(3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上				
イ. 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野				
(ア) 地域公共交通				
i. 地域公共交通ネットワークの維持・形成				
地域住民の移動手段の確保、利便性の向上等を図るため、地域公共交通ネットワークの維持・形成に連携して取り組む。				
(イ) 道路等の交通インフラの整備・維持				
i. 広域幹線道路網の整備促進				
圏域内交通の円滑化を図るとともに、防災性と代替性に富む多極ネットワーク型の地域構造を構築するため、高規格道路網をはじめとする広域幹線道路網の整備促進に連携して取り組む。				
(ウ) ICTインフラ整備				
i. 広域情報ネットワークの整備				
住民や観光客などの利便性や回遊性の向上はもとより、地域の観光や防災等の情報を即時に発信するため、広域的な無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備促進に取り組む。				
(エ) 農林水産物の生産振興・消費拡大への取組				
i. 生産振興に向けた取組				
地域内の新規就農者や農地に関する情報の共有化を図り、規模拡大をめざす農業者や、就農希望者に情報を提供するなど、広域圏内の特性を活かし、担い手の確保・育成に努める。				
ii. 有害鳥獣の広域防除				
鳥獣被害対策の効果向上のため、周辺自治体とイノシシ、シカなど農林業に被害を及ぼす鳥獣の生息実態等の情報を共有するとともに、効率的な予防及び捕獲に向け連携を図る。				
iii. 農林水産物の消費拡大への取組				
地域特産物の生産・加工・販売を広域的な視点に立ち、圏域内消費はもとより、圏域外への消費拡大を目指した情報発信等の取組を行う。				
(オ) 地域内外の住民との交流・移住促進				
i. 移住・定住対策				
移住・定住希望者の様々なニーズ等に対応するため、地域の特長を生かした移住・定住施策に取り組む。				
ウ. 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野				
(ア) 圏域内市町の職員等の交流				
i. 人材育成・交流				
職員の資質及び公務能力の向上を図るため、職員の相互派遣や交流の強化を図る。				



## 大分都市広域圏 各市町別連携協約項目一覧表 (案)

連携協約				連携市町						
大項目	中項目	小項目 1	小項目 2	別府市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後大野市	由布市	日出町
(1) 圏域全体の経済成長のけん引			i. 圏域を構成する各市町の特色を十分に活かした経済成長のための体制整備	○	○	○	○	○	○	○
			ii. 中小企業の経営強化、創業促進、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成	○	○	○	○	○	○	○
			iii. 企業誘致の促進	○	○	○	○	○	○	○
			iv. 地域資源を活用した地域経済の裾野拡大	○	○	○	○	○	○	○
			v. 戦略的な観光連携	○	○	○	○	○	○	○
(2) 高次の都市機能の集積・強化			i. 広域的災害等に関する機能の構築	○	○	○	○	○	○	○
			ii. 広域的公共交通網の構築	○	○	○	○	○	○	○
			iii. 高等教育・研究開発の環境整備	○	○	○	○	○	○	○

連携協約				連携市町							
大項目	中項目	小項目 1	小項目 2	別府市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後大野市	由布市	日出町	
(3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	ア. 生活機能の強化に係る政策分野	(7). 公共施設利用	i. 公共施設の相互利用の促進	○	○	○	○	○	○	○	
		(4). 地域医療・福祉	i. 健康診断の受診率の向上	○	○	○	○	○	○	○	○
			ii. 相談支援機能の強化	○	○	○	○	○	○	○	○
			iii. 地域子育て支援の充実	○	○	○	○	○	○	○	○
		(7). 教育・文化・芸術・スポーツ	i. 広域的教育の連携	○	○	○	○	○	○	○	○
			ii. 文化芸術の振興	○	○	○	○	○	○	○	○
			iii. スポーツの振興	○	○	○	○	○	○	○	○
			iv. 文化財等の保護及び活用	○	○	○	○	○	○	○	○
		(1). 地域振興	i. 雇用対策	○	○	○	○	○	○	○	○
			ii. 市民活動の推進	○	○	○	○	○	○	○	○
	(8). 災害対策	i. 広域的災害対策	○	○	○	○	○	○	○	○	
	(9). 環境	i. 一般廃棄物の広域処理	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ii. 特定外来生物の広域防除	○	○	○	○	○	○	○	○	
		iii. 水源流域の水環境改善	○	○	○	○	○	○	○	○	
	(4). 消防	i. 救急搬送体制の連携強化の推進	○	○	○	○	○	○	○		
イ. 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	(7). 地域公共交通	i. 地域公共交通ネットワークの維持・形成	○	○	○	○	○	○	○		
	(4). 道路等の交通インフラの整備・維持	i. 広域幹線道路網の整備促進	○	○	○	○	○	○	○		
	(7). ICTインフラ整備	i. 広域情報ネットワークの整備	○	○	○	○	○	○	○		
	(1). 農林水産物の生産振興・消費拡大への取組	i. 生産振興に向けた取組	○	○	○	○	○	○	○		
		ii. 有害鳥獣の広域防除	○	○	○	○	○	○	○		
		iii. 農林水産物の消費拡大への取組	○	○	○	○	○	○	○		
	(8). 地域内外の住民との交流・移住促進	i. 移住・定住対策	○	○	○	○	○	○	○		
ウ. 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	(7). 圏域内市町の職員等の交流	i. 人材育成・交流	○	○	○	○	○	○	○		
	全 31 項目			31	31	31	31	31	31	31	